

STOP 交通事故

市内15地区で交通事故防止を呼び掛け



本厚木駅南口でチラシを手渡す参加者

「秋の全国交通安全運動」に合わせ、市内15地区に民間交通監視所が設置されました。自治会や交通関係団体などから参加した約200人が、通行人らに事故防止を呼び掛けました。監視所は、感染症の影響で3年ぶりに設置されました。参加者は、「自転車も守ろう 交通ルール」「交通事故ゼロを目指そう」と書かれたのぼりや看板を掲出。信号待ちをしている歩行者などに、事故防止を呼び掛けるチラシや、夜間に車の光を反射するストラップなどの啓発物品を手渡しました。自治会長の水島達雄さん(78・旭町)は「皆さんに交通安全の意識を高めてもらうための活動は大切。活動を通じて少しでも事故が減らせれば」と話していました。

「秋の全国交通安全運動」に合わせ、市内15地区に民間交通監視所が設置されました。自治会や交通関係団体などから参加した約200人が、通行人らに事故防止を呼び掛けました。監視所は、感染症の影響で3年ぶりに設置されました。参加者は、「自転車も守ろう 交通ルール」「交通事故ゼロを目指そう」と書かれたのぼりや看板を掲出。信号待ちをしている歩行者などに、事故防止を呼び掛けるチラシや、夜間に車の光を反射するストラップなどの啓発物品を手渡しました。自治会長の水島達雄さん(78・旭町)は「皆さんに交通安全の意識を高めてもらうための活動は大切。活動を通じて少しでも事故が減らせれば」と話していました。



身近な生き物で命の尊さを学ぶ

あつぎ郷土博物館でバッタ展始まる

企画展は、昆虫が専門の博物館学芸員が担当。身近なのにあまり着目されないバッタを紹介すること、子どもたちに命の尊さや環境の大切さを考えてもらうために実施しました。期間中は、学芸員と博物館周辺でバッタを探しながら解説を聞く催しなども行われ、多くの親子連れなどが参加しました。



巨大なバッタの模型がお出迎え

あつぎ郷土博物館で12月4日まで、企画展「バッタ・はねる、飛ぶだけじゃない、バッタの魅力」が開催されています。会場には、巨大なトノサマバッタの模型や、市内をはじめ、友好都市の秋田県横手市・北海道網走市・沖縄県糸満市に生息するバッタの標本、おもちゃや書籍などが並び、来場者を楽しませています。

楽しみながらSDGsを自分ごとに

あつぎSDGsフェスティバルを初開催

持続可能な開発目標「SDGs」を身近に感じてもらおうイベントを、あつぎ市民交流プラザで開催しました。会場には親子連れなどが訪れ、市、市内事業者、大学が設置した体験コーナーや展示を楽しみながらSDGsを学びました。イベントはSDGsを自分ごとと捉えてもらうために開催。家電製品の消費電力を測るコーナーや、市が導入したスマートフォンアプリ「まちのコイン・アユモ」の体験コーナーなどを設置しました。神奈川工科大学の学生によるSDGsを学ぶすごろくでは、多くの子どもが楽しんでいました。会場では、「あつぎSDGsパートナー」の登録式も開催。市内65の企業・団体・教育機関などに、小林常良市長が登録証を手渡しました。



あつぎSDGsパートナーの登録式

伝統文化に親しむ秋の一日

市指定有形文化財の一般公開と稚児行列を実施

妻田薬師にある市指定の有形文化財「木造薬師如来坐像」が12年に1度の半開帳を迎え、文化財に親しむ催しが開催されました。子どもの無病息災を願う「稚児行列」も実施され、約170人が地域を練り歩きました。薬師堂の扉が開かれると、厨子や木造十二神将立像などの文化財が披露目されました。観光ボランティアガイド協会が歴史や意味を解説し、来場者は真剣に聞き入っていました。稚児行列では、鮮やかな衣装をまとった子どもたちが、市場公園から妻田薬師までの約1.5キロを歩きました。子どもたちは「きれいな衣装を着られてうれしかった」「衣装が思った以上に重くて疲れたけど楽しかった」などと話していました。



小雨が降る中、妻田薬師に向かう稚児行列



第13回 みんなで! SDGs

SDGs (持続可能な開発目標) の実現のために設定された17の目標を知り、できることから実践しませんか。

目標10 人や国の不平等をなくそう
世界では、生まれた国、人種、民族、性別、宗教、障がいの有無などにより、経済格差や不平等が生じています。不平等をなくし、誰もが幸せに暮らせる世界を目指しましょう。



できる取り組みは?

他者理解を深める

個人ができる取り組みとして、まずは他人の異なる価値観や人間性、考え方を理解することが挙げられます。自分と周りの人を比べると、必ず違いがあります。他者理解を深め、自分との違いを尊重できるようになることが、差別、不平等をなくすことにつながります。



困っている人への声掛けやボランティア活動への参加

困っている人がいれば、手伝えることがないか声を掛けることも、個人でできる取り組みです。不平等は目に見えないものもたくさんありますが、まずはできる範囲から取り組んでみましょう。

この道を行けばどうなるものか。座架依橋から中三田に続く陸橋の先に、新たな道が姿を見せています。県道42号(藤沢座間厚木)の延伸道路で、2026年度までに下荻野の県道63号(相模原大磯)に接続予定。荻野から依知や座間方面へのアクセスを高めることが期待されています。複数の高速道路や国道を抱える厚木市は、古くから交通の要衝として栄えてきました。さらなる道路交通



厚木土木事務所から県道整備の状況を確認

現在は早期開通に向け、埋蔵文化財調査、中津川橋梁下部や地盤改良の工事などを進めています。新しい道の先には、市民の皆さんの便利な生活が広がります。企業誘致にもつながり、まちの価値も高めてくれます。魅力的なまちをつくるため、市道の整備はもちろん、国道・県道の整備にも協力や要望をしていき、全国に誇れる道路ネットワークの構築を進めてまいります。